

宮武 功

ミヤタケ イサオ (Isao Miyatake)

基本情報

所属 大阪観光大学 大阪観光大学観光学部 准教授

学位 慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント後期博士課程満期退学

研究キーワード

地域活性/都市計画/公共政策/観光振興/幸福論/組織論/均衡論/超小型人工衛星

研究分野

地域活性/都市計画/公共政策/観光振興/幸福論/組織論/均衡論/超小型人工衛星

経歴

1996年4月～1999年3月 住宅メーカー

建築本部 設計課 技術担当（設計・積算・施工管理・技術指導）

1999年4月～2007年3月 和歌山市役所

生活支援課（ケースワーカー 社会福祉主事）

観光課 観光振興事業・観光施設管理

保育所管理課 統廃合、施設整備管理

2007年4月～2009年3月 内閣府・内閣官房

地域活性化統合事務局 特区法・地域再生法 企画法規、地域（近畿ブロック）主査

2009年4月～2012年3月 和歌山県庁

知事室 東京事務所 経済産業政策担当 主査（2010年全国経済行政研究会会長）

2012年4月～2014年3月 和歌山市役所

国体推進課 輸送交通・競技担当企画員

障害者支援課 外出支援事業等担当企画員

2014年4月～2015年3月 陸前高田市役所（災害派遣職員）

企画部商工観光課 観光交流係

（着地型観光・民泊組織設立・観光施設・教育旅行誘致担当）主査

2015年4月～2016年3月 和歌山市東京事務所

市長公室 東京事務所 企業誘致・産業振興・シティプロモーション担当企画員

2016年4月～2016年6月 和歌山市役所

介護保険課 予算決算、事務事業評価担当企画員

2016年7月～2016年12月 慶応義塾大学大学院 SDM 研究所（研究員）

地域活性化に資する研究・学生指導

コンサルタント会社（研究主幹）地域活性化事業コンサルタント業務

2016年12月～2018年3月 衆議院議員 公設秘書（所長）

2022 年 4 月～

・大阪観光大学観光学部 准教授

兼務：加太まちづくり株式会社コンサルタント

兼務：加太地域活性化協議会総務

兼務：加太観光協会 事務局長

業績

所属学会

日本都市学会、関東都市学会、地域活性学会、ヒトと動物の関係学会

1)学会誌等における研究査読論文 ※筆頭著者のみ記載

○都市廃棄物不法投棄の監視モデルに関する地方自治体職員の施策選択について－関西広域連合による不法投棄監視衛星モデルの構築を事例として－/日本都市学会年報 vol.45/日本都市学会/2012.5

○地域密着型観光の推進組織の形成に対する大学の貢献可能性－ハワイのニュー・ツーリズムを一事例として－/地域活性学会論文集/地域活性学会/2011.3

2)国際会議発表

○ Micro/nanosatellite Social Utilization Design for Illegal Waste Disposal Detection/The 63rd International Astronautical Congress/International Astronautical Federation/2012.10

○都市廃棄物不法投棄の監視モデルに関する地方自治体職員の施策選択について/第 4 回環境共生・安全システムデザイン国際シンポジウム/慶應義塾大学/2012.2

○地域密着型観光の推進組織の形成に対する大学の貢献可能性－ハワイのニュー・ツーリズムを一事例として－/第 3 回 環境共生・安全システムデザイン国際シンポジウム/慶應義塾大学/2011.2

3)国内会議、研究会発表

○陸前高田市における多様な主体連携被災地観光モデル「巨大ベルトコンベア見学」の構築 - 第 7 回地域活性学会研究大会発表・論文集掲載/地域活性学会/2015

○地方都市における市民憲章理念に基づく地域活性に資する余暇活動推進モデルの研究 - 和歌山市を事例とした多様な主体連携による新しいスポーツコミッションの構築 - 第 5 回地域活性学会研究大会発表・論文集掲載/地域活性学会/2013

○超小型衛星による不法投棄監視・災害廃棄物放射能検知の研究/第 4 回地域活性学会研究大会発表・論文集掲載/地域活性学会/2012.7

○衛星画像を用いた都市廃棄物不法投棄の早期発見モデルに関する地方自治体職員の選好について－関西広域連合モデルの構築を事例として－/日本都市学会第 58 回大会研究発表・要旨集掲載/日本都市学会/2011.11

○地域環境破壊問題「不法投棄」について衛星画像を用いた広域地域取締の研究/第3回地域活性学会研究大会発表・論文集掲載/地域活性学会/2011.7

○産官学連携によるアグリツーリズム（農業観光）推進組織の形成過程と人財育成の課題/地域活性学会研究大会論文集/地域活性学会/2010.7

講演

○加太地域における観光振興取組について-組織と地政学の観点から-/和歌山ロータリークラブ講話/2023

○みんなで一緒に成功を味わう方法ーまるごとくぜんたかた協議会を事例にー/農山漁村活性化人材バンク講演会/NTT データ経営研究所/2014

○陸前高田市の現状と課題/国際ソロプチミスト協会和歌山定例会/国際ソロプチミスト協会和歌山/2014

執筆

○特区・地域再生のつくり方/第2章地域再生制度のポイント/P23-34/御園慎一郎・服部敦・大前孝太郎（共著）/ぎょうせい/2008

○地域における「上乘せ寄付」等の新しい寄付システムが寄付者行動に与える定量的な効果等に関する研究報告書/共同執筆/内閣府経済社会総合研究所/2008

受賞

○都市廃棄物不法投棄の監視モデルに関する地方自治体職員の施策選択について/第4回環境共生・安全システムデザイン国際シンポジウムポスターセッション・ベストポスターアワード/慶應義塾大学/2012.2

○産官学連携によるアグリツーリズム（農業観光）推進組織の形成過程と人財育成の課題/第3回環境共生・安全システムデザイン国際シンポジウムポスターセッション・ベストポスターアワード/慶應義塾大学/2011.2

○和歌山市政策研究表彰「和歌山市の文化・スポーツ振興政策研究」/和歌山市長表彰/2013

地域活性取組事業

2015

徳川吉宗を所縁とした赤坂氷川神社プラットフォーム活用による和歌山市・港区の都市間連携取組

【概要】

和歌山市の偉人であり、港区赤坂氷川神社を整えた徳川吉宗。共通の偉人への崇敬の念を活用し、両地域のお祭り、商店会の交流から、学校交流、災害時における都市間連携等

を計画。

包括的都市間協定を視野に地域団体含む、和歌山市・港区・赤坂支所と折衝。

【効果】

2016 年 9 月に行われる赤坂氷川神社例大祭において、氏子赤坂地区の商店会約 80 店舗が和歌山所縁の食材等物販を実施予定。併せて和歌祭保存会が上京、赤坂氷川神社山車巡行に参画。継続した地域間交流の深化を図る。

2014

位置情報システム活用ゲーム Google 社「Ingress」・陸前高田市連携観光推進事業の構築と実践

【概要】

市内各団体の有志で陸前高田市観光支援組織「たかだ Ingress 研究会」を結成。市内における現実の観光物産拠点でもある「ポータル」を調査・撮影し許認可を行う当該運営会社 Google に申請（ゲーム中スマートフォンから）を行った。Google(JAPAN)、当該取組の趣旨に賛同し、「ポータル申請について業務を行っている Google (U S A) に受理・許可を優先的に約 1・2 か月程度（通常ポータル申請は半年から一年かかる場合もある）で完了する旨の協力を取付けた。

【効果】

現在、陸前高田市は東北において仙台・盛岡に次ぐ最大級のポータル数配置となった。

併せて当該取組について、各報道機関に情報提供・記者会見を行った。当該取組の新規性にニュース性を感じたのか、NHK を含むマスコミ・新聞社が大々的に報じた。その後、Ingress 関連イベント等が複数回実施され、市内への観光客誘客に資する結果となった。
※現在 Google 内 Ingress 開発運営組織「ナイアンテック・ラボ」は独立、後継機種「ポケモン GO」を開発。

陸前高田市における連携被災地観光モデル「巨大ベルトコンベア見学ツアー」の構築と実践

【概要】

陸前高田市の土地区画整理事業に伴う高台造成の一環で整備された『巨大ベルトコンベヤー』の見学ができる被災地観光モデルを構築。

関係課である商工観光課、都市計画課、及び市街地整備課や、事業を施工している清水・西松・青木あすなろ・オリエンタルコンサルタンツ・国際航業 J V 及び、事業委託先である U R（都市再生機構）と多様な主体連携により、平成 26 年 10 月から見学ツアーの受付を始めた。

実施内容としては、陸前高田市の工事事務所で工事概要説明を受けた後、高台造成地にある破碎機下の駐車場で見学。土砂を運び出すベルトコンベア始点部から眺めてもらい、復興事業の理解促進などを図る。所要時間は約 1 時間。1 人あたりの費用は、お土産付き

で 1,500 円とした。お土産は高台造成で生じた土砂と、市民から提供を受けたヒマワリの種が入ったガラス瓶。

売り上げの一部（500 円）は、高田松原の再生を目指す各種団体に寄付され、早期復興につなげた。

【効果】

多様な主体が連携し、被災地において復興していくまちづくりの様子を観光メニュー化し、収入の一部を復興・再生に活用する当該復興観光メニュー『陸前高田モデル』は全国的に見ても先進的で、被災地の新しい観光振興ビジネスモデルとなった。見学参加者が自宅に戻った後も、ヒマワリの種を植えることで風化防止や絆の広がりといった効果も考えられる。

※陸前高田市における多様な主体連携被災地観光モデル「巨大ベルトコンベア見学」の構築 - 第 7 回

地域活性学会研究大会発表・論文集掲載/地域活性学会/2015

国庫補助事業採択

2018

- 文化庁「観光人材確保育成事業」統括（加太観光協会）
- 観光庁「最先端観光コンテンツインキュベーターモデル事業」統括（加太観光協会）

2019

- 観光庁「市場多角化観光事業」統括（加太観光協会）
- 環境省「国立公園誘客推進事業」統括（加太観光協会）
- 観光庁「誘客多角化事業」統括（加太観光協会）

2020

- 観光庁「誘客多角化事業」統括（加太観光協会）

2021

- 観光庁「ウィズコロナ高付加価値補助事業」統括（加太観光協会）
- 観光庁「新たな旅のスタイル補助事業」統括（加太観光協会）

2022

- 観光庁「観光看板商品補助事業」統括（加太観光協会）

2023

- 観光庁「観光再始動補助金事業」統括（KIX 泉州ツーリズムビューロー）

学歴

1991 年 4 月～1996 年 3 月 大阪芸術大学・芸術学部・建築学科
都市計画デザイン専攻 卒業/学士（建築学）

2002 年 4 月～2004 年 3 月 和歌山大学大学院・経済学研究科

地域マネジメント専攻 修士課程修了/修士（経済学）

2010 年 4 月～2013 年 3 月 慶應義塾大学大学院システム・マネジメント研究科

システム・マネジメント専攻 後期博士課程/単位取得満期退学